

科目名		授業形態	担当教員名	
小児科学		講義	呂 重濱	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
小児の成長、発育と発達など成人と異なるところを押さえながら、小児期の疾患の症候と診断およびその対応について理解する。				
授業の到達目標				
1. 小児の発育・発達の特徴を説明できる。 5. 各種小児疾患の医学的対応について説明できる。 2. 新生児・未熟児疾患について説明できる。 3. 先天異常と遺伝病について、その病態と特徴を説明できる。 4. 各種小児疾患の原因や病態について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	小児科学概論、小児の成長・発育と発達、栄養と摂食、保健			
2	小児疾患の診断、検査と治療法			
3	新生児・未熟児の概念、新生児仮死の症候、呼吸障害、黄疸など。			
4	未熟児の神経学所見、低酸素、虚血状態、異常症状。			
5	先天性異常と遺伝病、その概念と発症メカニズム、遺伝子変異と疾患との関連性、先天奇形、先天性代謝異常			
6	循環器疾患：胎児期から出生後への循環動態の変化、主要症候と検査			
7	特に先天性心疾患、後天性心疾患：心筋炎など			
8	呼吸器の発生と機能、呼吸器疾患の病因病態、症状と検査、多発的な呼吸器疾患の診断と治療。			
9	感染症の症状、診断と治療、各年代での代表的な感染症例えば風疹			
10	麻疹、リンゴ病、川崎病など			
11	消化器疾患、消化器の発生、発達と乳児期の特徴、胃腸、肝胆疾患。			
12	内分泌代謝疾患・視床下部・下垂体疾患、肥満、血液疾患、貧血 出血、白血病。			
13	免疫の仕組み・アレルギー疾患と膠原病			
14	腎泌尿器系、生殖器疾患、腎炎、腎不全、総復習			
15	復習			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	60%	終了試験の結果によって評価する。		
レポート				
小テスト	30%	問題を解答してもらい、その結果によって評価する。		
平常点	10%	授業態度や予習復習によって評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第5版	鎌倉 矩子・富田 豊・奈良勲		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準小児科学 第8版	原 寿郎・高橋孝雄・細井創		医学書院	
病気が見える シリーズ 最新版	医療情報科学研究所		メディクメディア	
自由記載				
備考				